

農 大

令和4(2022)年度版

令和5年1月25日発行
愛知県立農業大学校



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>

本年もよろしくお願いたします

露地野菜専攻



CONTENTS

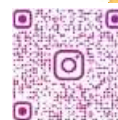
- 1 新年のあいさつ
- 2 専攻紹介（露地野菜専攻）
- 3 各専攻トピックス
- 4 農業者育成支援研修等の修了
- 5 トピックス
始業式の開催
学校給食で農大産野菜を使用
東海近畿ブロック発表会等で学生が入賞
第4回進路セミナーの開催
職場研修（SDGsと農業）の開催
経営管理研修（パソコン農業簿記）の開催

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter





新年のごあいさつ



校長 鷹羽靖夫

新年あけましておめでとうございます。

日頃から農業大学校の運営に対して、関係者の皆さま方の御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

令和5年は、癸卯（みずのとう）のウサギ年です。この干支は、静かで大地を潤す恵の水を表す「癸卯」と繁殖と跳躍を表す「卯」の組み合わせから、努力が実を結び飛躍する年を表しているようです。農業大学校にとって、今年も学生や研修生が大きく飛躍できるよう職員一同取り組んでまいります。

昨年は、3年ぶりに東海近畿地区農業大学校スポーツ大会が本県主催で行われ、農大祭も食品バザーの再開などさまざまな行事が新型コロナ対策に留意しながら感染症発生以前の形で開催できました。学生も生き活きと学校生活を楽しんでくれていました。

年を改まった本年は、2年生は、卒論のとりまとめとともに、3年ぶりのオーストラリアへの海外派遣研修に出発します。企画研修部も長期研修生の成果発表会・修了式が順次行われます。学生や研修生が無事巣立ちの時に入りますが、これも関係各位のご理解とご協力によるものと感謝申し上げます。

さて、2023年度入試の状況ですが、定数100名に対して一次試験までに92名の合格者を出すことができました。現在二次募集中ですが、引き続き農業大学校の魅力発信に努め学生の募集に取り組んでいきたいと考えております。

また、4月から愛知県農業総合試験場などの協力を得てスマート農業の授業が本格的にカリキュラムとしてスタートします。現在、各種機器の整備や授業の準備を進めています。

本校は、今年も職員全員が学生等とともに未来ある学校づくりに向けて取り組んでまいります。今後も一層の御理解と御協力をお願いいたします。



農学科後援会長
名倉順子

新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様には、日頃から農学科後援会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本後援会は、学生の寮生活における福利厚生や教育内容の充実への協力のほか、農大祭等へ参加し自らの研鑽に努めることなどを目的としており、皆様からの会費をもとに、学生への支援事業等を行っています。

去る12月3日の農大祭では、保護者の方から農産物を多数ご提供いただき、また当日は、多くの方にバザーにご協力いただいたことに深くお礼申し上げます。

引き続き農業大学校と連携しながら、コロナ禍の中でも学生が充実した学校生活を過ごせるよう、活発な後援会活動を通じて、更なる協力・支援を図って参ります。

本年が学生、保護者の皆様にとって、希望に溢れる一年となりますよう心よりお祈り申し上げますとともに、農業大学校の益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

専攻紹介

露地野菜専攻

露地野菜専攻は、愛知県が日本一の生産を誇るキャベツなどの露地野菜と促成栽培のイチゴを栽培しています。農業の未来を担う学生28人（2年生13人、1年生15人）がメンバーです。

ほ場の広さは1.5haと広大で、季節に応じて様々な品種を栽培しています。その数は40品目にもなり農大での専攻実習を通してこれらの栽培方法を学ぶことができます。

大きな面積の栽培に適した機械化やイチゴの栽培では環境制御技術の導入も行っています。また、多品目の栽培方法など日々多くのことを学びながら、栽培だけでなく売り方やブランド化など販売方法の工夫も学んでいます。

専攻実習の様子



機械化



大きなトラクターを使った耕転、乗用の農薬散布機での防除、ジャガイモ堀機など様々な機械を使うことができ、専攻実習でメンテナンスも行います。



【機械の種類】

乗用農薬散布機、トラクター（70馬力）、ジャガイモ堀機、巻取り式動力噴霧器、プランソイラー、マルチ張り機など



販売促進



珍しい野菜の栽培も行っているため、お客さんが買いたくなるようなポップを作成し販売促進を図っています

【ブランド化】

大玉イチゴ専用パッケージを作り付加価値化



イチゴの設備



イチゴの給液管理

農大のイチゴはとても甘く好評です。炭酸ガス発生装置やモニタリング機器など環境制御を学べる設備が整っています。



モニタリングデータをチェック

- 【農大イチゴ栽培について】
- ・完熟出荷で糖度が高く甘い
 - ・炭酸ガスを利用し光合成を促進
 - ・細霧冷房により湿度をコントロール
 - ・愛知県で栽培される3品種を学ぶことができる



多様な品種



栽培品目は40品目以上。自分の育てたい野菜をこだわって作っています。

- 【栽培品目】
- キャベツ、ブロッコリー、イチゴ、スイートコーン、カリフラワー、ナス、キュウリ、オクラ、ズッキーニ、スイカ、メロン、アスパラガス、パレイショ、タマネギ、ホウレンソウ、ダイコン、コマツナ、ネギ、チンゲンサイ、レタス、ハクサイ、エダマメ、インゲン、ラッカセイ等



ホウレンソウの調査



ダイコンを収穫



タマネギの定植

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！



イチゴの収穫が本格化

1月に入りイチゴの収穫が本格的に始まりました。1日おきに60パック程度の収穫があり、少しずつ忙しくなってきました。1年生には慣れないパック詰めですが、少しでもきれいな商品を作ろうと頑張っています。今年度は生育が良く大粒のものも沢山採れていて、大粒パック（1粒40g以上で3粒入り）が30パック以上できる日もありました。イチゴの収穫は6月上旬まで続く予定で、今後さらに甘みが増し食味が良くなっていきます。



高糖度ミニトマトの収穫が始まりました！

施設野菜専攻では大玉トマトやミニトマトのブランド化に取り組んでおり、高糖度処理を行い一定糖度以上のものを「旨味のあるトマト」として販売しています。今年度も12月末より収穫が始まり、少量ですが一部直売などでも販売しています。シールは学生がデザインしたもので、学生らしい可愛いデザインが特徴です。このデザインを見かけた際は是非お買い求めください！



次作に向けたほ場の準備が進む！

作物専攻では、冬の間は次作に向けた準備を行います。ほ場の耕うんをしたり、土壌改良材で土づくりを行ったり。地味な作業ですが大事な作業です。管理作業は1年生主体となり、慣れない機械操作に四苦八苦しながら頑張っています。今後はレーザーレベラーでほ場を均平にさせ、安定した収量を確保できるように下準備を進めていきます！





切花

寒さと花たち

年末や成人式といった需要期の忙しさを乗り越え、学生たちにとっては落ち着いた日々が戻ってきました。しかし、多くの花たちにとってはまだまだ寒くて辛い日々が続いています。

バラやガーベラは、寒さの影響を受け、生育があまり良くない印象です。暖房の設定温度を上げられればいいのですが、重油が高くてなかなか…。暖くなるまでの辛抱です。

一方で、この寒さが必要な植物もあります。キクは現在、採穂用の親株の状態ですが、この時期に寒さに当たった方が活性が高くなると言われています。寒さにしっかりと耐えて丈夫な穂を伸ばしてほしいものです。



鉢花・緑花木

芽がどんどん出てきました！

春の花壇苗の芽がよきよき出てきました。まだまだ寒さがきびしい冬ですが、花の世界ではもう春の準備で大忙しなんです。ペチュニアやベゴニア、ガザニア、トレニア、、、春花壇を彩る花の赤ちゃんがどんどん誕生しています。これからすくすく大きくなってくれるように、心を込めてお世話をする学生たちです。花壇苗ばかりではなくシクラメンも芽が出てきました。シクラメンは12月によく売れますが、種まきも12月なんです。これから1年間丁寧に育てていきます。



果樹

農家さんからブドウのせん定を教してもらいました♪

1月12日、果樹専攻に東浦町のブドウ農家さんをお招きし、ブドウ苗木の定植のポイントと、ロケット整枝のせん定方法を教わりました。ブドウ苗木を植える際は、土質をよく把握したうえで、植穴に適切に土壤改良を行うこと、植え付けよりも早い時期に行うことで通気性の良い土に仕上がることを学びました。せん定では、ロケット整枝に取り組む際には、必ず自然形整枝の考え方を学んでから行うこと、先端が容易に切り替えられないことから、車枝をなくしたり、返し枝方向に誘引することで先端を負けさせないことを教わりました。1年生からは、さっそく取り入れたいと前向きな意見が聞かれました♪





チーズと牛肉の食味試験を行いました

酪農専攻でチーズと牛肉の食味試験を行いました。チーズは農大の牛乳で作られたもの、牛肉は農大で肥育した交雑牛です。チーズはピザにして、牛肉はシンプルに焼いて、美味しくいただくことができました。日頃は牛の飼養管理ばかりで、なかなか毎日の頑張りを実感することが難しいと思います。みんなの頑張りがこうして生かされていると少しでも実感してくれると嬉しいです。大変だけど今後も頑張ろうね。



新春、豚の初出荷を行いました

正月明けの初めての出荷を1月12日（木）に行いました。出荷頭数は肉豚15頭、大貫2頭でした。

年度初めの出荷では恐る恐るの面が見られた1年生でしたが、豚の扱いに慣れて、問題なくできるようになりました。

今回の肉豚の格付で上物率は残念ながら20%で、格落ち理由の大部分は厚脂によるものでした。今後はこれらの原因を解明し、上物率を上げるように取り組んでいきます。



新たな気持ちで

新年あけましておめでとうございます。鳥インフルエンザの相次ぐ発生や物価の高騰などで畜産業界は悩ましい時期が続いておりますが無事新年を迎えられてほっとしています。新年になり色々と業務内容を改善してきたおかげもあり、卵の売り上げも上々です。

2年生は卒業論文を書き終え、オーストラリアへ研修に行きました。1年生だけで管理をしていますが、最近では来年度に向けて実習内のルールや仕組みを改善しています。来年度はさらに仕事がしやすい環境になることを期待しています。



令和4年度農業者育成支援研修修了

令和4年度農業者育成支援研修の閉講式を1月20日に行いました。今年度の研修は、20代から60代までの研修生15名を迎え、令和4年5月20日から8か月間にわたって取り組んできました。

最高気温が35度を超える真夏の炎天下でナスやキュウリを栽培するなど、身をもって農業の大変さを学ぶ一方、消費者に買ってもらえる野菜を栽培するという農業の楽しさも知ることができたと思います。

閉講式では、研修生の一人ひとりが、これから目指す農業への抱負を力強く述べました。

その後、鷹羽校長から修了証が手渡され、ねぎ

らいと激励の言葉を受け、閉講式は終了しました。目指す農業は様々ですが、全員が立派な農業の担い手になってもらえることと期待しています。



研修を修了して(研修生から)

- 太田 康夫さん：産直をやりますが、“やっさんの万願寺とうがらし”はうまいとリピーターが現れる、愛される野菜づくりを目指します。
- 室賀 弘さん：落ち葉、雑草で堆肥を作る。ぬかから肥料を作る。
- 森 誘子さん：この研修で学んだ知識と失敗を教訓に成長して、岡崎でブドウ（巨峰等）を中心に新規就農をしたいと思います。
- 伊藤 亨さん：研修では体力と仲間を得ることができました。知多を拠点にほっぺたが落ちる『いとうもろこし』を創ります。
- 早川 尚利さん：5年後には稲沢市で認定農家になれるよう、しっかりと稼ぎながらも、あせらず計画的に作物を育てていきます。
- 岩瀬真奈美さん：ニンニクをメインに栽培、無農薬を目標に野菜づくりをしたいと思っています。
- 百井伊智郎さん：北名古屋市で新規就農し、エダマメやシュンギク、スティックブロッコリーを施設や露地で栽培します。
- 堀江 稔仙さん：研修後雇用就農し、経営や栽培の技術を学びながら農地を探し、大規模露地野菜農家を目指します。
- 則俊 博司さん：この8ヶ月間学んだことを今後の野菜づくりに生かしながら、色々な野菜を産直へ出荷したいと考えています。
- 山田 良一さん：今回の研修で学んだことを生かして、露地野菜で少量多品目を育てる農業で新規就農したいと思います。
- 岩瀬みどりさん：ここで学んだ全てのことを生かして、生涯現役で農業を通じて働き、福祉・食育など社会貢献を含め地域農業の発展のために頑張っていきたいと思っています。
- 鈴木 良孝さん：今回の研修で学んだことを生かし、果菜類と切花、少量多品目の露地野菜で新規就農したいと思っています。
- 水田 雅秀さん：この研修で学んだことを生かして、稲作中心に露地野菜の観光農園、飲食店を総合的に経営していきます。
- 山田 章貴さん：研修で学んだ知識を基に農業を始め、障がい者の方に働く場所を提供する取組をしたいと思います。
- 荒巻はるなさん：研修での学びを生かし、さらに有機栽培を学んで、有機野菜を多くの方に販売できるように活動していきます。

令和4年度農福連携支援研修修了

令和5年1月20日に令和4年度農福連携支援研修の閉講式を開催し、11名が6月15日から8か月間の研修を修了しました。

研修生は福祉事業所などで忙しい業務をこなしながらも、概ね週1回、暑い中、寒い中でのほ場実習・座学での講義を通じて野菜の栽培管理や基礎知識の習得に向けて熱心に研修に取り組んでいました。また、閉講式前には、研修受講後の抱負・決意について一人ずつ発表を行いました。研修生からは、「実習で農業のこと、講義で福祉での支援方法といろいろな角度から学べてよかった」「この経験を生かして利用者さんが収穫の喜びを味わう支援をしたい」「一緒に学んだ方々と農福のネットワークを広げ

ていきたい」などの声が聞かれました。

研修生の皆さんには、研修で学んだ知識や技術を活用し、それぞれの職場で施設利用者さんが生き生きと農作業に取り組めるよう、活躍を期待します。



研修を修了して(研修生から)

皆さんや先生方にお会いするのが楽しくて仕方がなかったです。Well-being (幸福) できてる！状態でした。

Well-being を多くの方に感じてもらうように活動できたらと思います。

知らないことばかりだったのですべてが勉強になりました。

一緒に学んだ方々も素敵な人ばかりで非常に楽しかったです。

農業を通じてこれからも素敵な方と出会い、農福連携のネットワークを広げていきたいです。

温かい皆さんや先生たちと共に学べて楽しかったです。

微力でも農福連携に貢献できるように今後も精進したいと思います。

この研修に参加して、先生方や皆さんと一緒に学んで、これからのお手本とする人や目標が見つかりました。ありがとうございました。

70歳から目標と夢を持って100歳まで頑張りたいです。思いやりとやさしさを持っていきたいです。研修でお世話になった皆さんに感謝します。

専門的な農業から福祉の支援の仕方まで、いろいろな角度から学ぶことができました。

週1回の研修は勤務の調整と良いペースでできました。

改めて学ぶことの楽しさとともに農業と福祉の難しさを感じました。

知識だけでなく実践で生かしていけるよう、経験を積んでいきたいです。

農業のイロハもわからないところからスタートして手取り足取り、先生方や皆様に教えていただき本当にありがとうございました。

この経験を活かして、収穫の喜びを味わえるよう、利用者さんたちを支援しながら自分も含め農作業を楽しめるよう試行錯誤していきたいです。

農業にはいろいろなやり方や考え方があり正解がないことがわかり面白いと思いました。

学んだことを2月から畑にぶつけていこうと思います、

ありがとうございました。

トピックス

始業式を行いました

1月10日（火）、始業式を行いました。

冬休み中はコロナの行動制限もなく、かなりリフレッシュできたのか、学生は皆、元気な顔をみせてくれました。

校長からは「今期、1年生は上級生となる準備と自覚を持つこと、2年生は農大生としての総決算、行事も目白押しだが、残りの学生生活に悔いを残さないよう、最後まで気を緩めることなく走り抜いてほしい」との講話がありました。

また、始業式に先立ち、昨年の実習販売で過去の販売額に比べ伸び率が高かった専攻に対し、表彰を行いました。栄えある第1位は露地野菜専攻でした、おめでとうございます。



実習販売の表彰

学校給食に農大産の野菜が使われています

岡崎市は市内小中学校の給食に地元農産物を積極的に活用しており、農大産の野菜も、昨年10月から利用されるようになりました。

1月13日の給食で農大産のハクサイを使った献立が提供されるということで、当日、東部学校給食センターを訪問し、施設見学と実際に給食を試食させていただきました。農大産のハクサイがわかめスープにたっぷり使われていて、とてもおいしかったです。

今の時期は農大産のキャベツやハクサイが献立に取り入れられています。給食センターから「今後、ホウレンソウなど他の野菜も増やしたい」、「農大の学生にもぜひ見学・試食をしてもらいたい」など、ありがたいご意見をいただきました。

学生も自ら栽培した野菜が使用されている現場を見る機会はなかなかないので、早速、企画していきたいと思えます。



わかめスープに、農大産はくさい

令和4年度東海近畿ブロック農業大学校 プロジェクト発表会・意見発表会で入賞しました

1月17日（火）～18日（水）、令和4年度東海近畿ブロック農業大学校プロジェクト発表会・意見発表会が兵庫県加西市で開催され、本校からプロジェクト発表の部で作物専攻2年生の門脇幹さん、意見発表の部で同じく作物専攻1年生の田中惣惇さんが代表として参加しました。

2人とも緊張の中、発表を行い、審査員からの質問にも的確に答えていました。

結果、見事、門脇さんは第2位、田中さんは第3位となりました。門脇さんは、2月7日（火）～8日（水）に開催される全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会のブロック代表として参加することとなりました。全国でも上位入選が期待されます。



向かって中央右が門脇さん、左が田中さん

第4回進路セミナーを開催 ～社会人としてのマナーを学ぶ～

1月19日（木）、1年生を対象とした第4回進路セミナーを開催しました。

講師に(株)昭栄広報の吉口くみ子先生から「社会人マナー講座～信頼につながる表現方法～」と題してご講義いただきました。

学生は全員がスーツ等着用し、実際の面接に必要な身だしなみから、座り方、姿勢、あいさつまできめ細かく指導を受けました。身だしなみについては、チェックリストで学生同士がチェックし合ったり、面接時の基本動作（座り方、立ち方、挨拶）を全員で先生にならって行いました。

また、面接時の三大質問（学生時代に力をいれたこと、自己PR、志望動機）のポイントについて、面接する側が何を求めているか、質問の意図は何なのかを理解して答えることの大切さを学びました。

今回のセミナーではまもなくはじまる就職活動に向けて全員が緊張しながら真剣に聴いていました。



吉口先生による身だしなみ等のチェック

職場研修(SDGsと農業とカーボンニュートラル)を実施

12月23日（金）、農大の職場研修を開催し、講師に岡崎市総合政策部企画課副課長の板坂英幸氏と岡崎市環境部ゼロカーボンシティ推進課副課長の古瀬川英樹氏を招いて「SDGs と農業とカーボンニュートラル」と題して講演をいただきました。

SDGs の話題が多くなっている昨今、本校においても学生に対して啓発をしていくことが必要であり、まずは職員への意識付けを目的に初めて SDGs に関する研修を開催しました。

農業には SDGs との関わりが多くあることや、岡崎市内の気候変動の現状と将来予測の話を受け、カーボンニュートラルへの取組の重要性を改めて認識しました。

本校で、SDGs への取組として何ができるか、考えさせられる研修となりました。



岡崎市の職員の方から講演

経営管理研修(パソコン農業簿記活用研修)

1月16日（月）、令和4年度経営管理研修パソコン農業簿記活用研修を行いました。研修には、農業経営にパソコン農業簿記を導入したいと考えている農家や本校研修生など21名が参加しました。

最初に講師の樋田久先生から、研修内容についての説明があり、その後、決算整理の手順から講義が始まりました。

仕訳、農産物の棚卸、減価償却、保険積立金の処理方法などの練習問題を行った後、パソコンでソリマチの農業簿記ソフトを操作しながら、入力済み伝票のチェック方法、決算修正のポイント、消費税の換算方法などわかりやすく丁寧な講義が進められました。

研修後のアンケートでは、「大変わかりやすかった」、「今後活用したい」など高い評価がほとんどで大変有意義な研修となりました。



パソコンを操作しながらの研修